２０１８年10月23日発行　毎月12回（１と３と５と７のつく日）　通巻7287号　第45号
ＳＳＴＫ　１９８３年７月１９日第三種郵便物承認(1)

SSTK さくら草だより

発行人:埼玉県障害者団体定期刊行物協会
〒332-0851
川口市芝新町15-9アステール藤野1階
電話:048-225-1625　頒価:50円

編集人:社会福祉法人さくら草
〒336-0015　さいたま市南区太田窪3501-2
HP:http://www.sakuraso.net/ 電話:048-813-7426
Fax:048-8866301 E-mail:info@sakuraso.net

あなたに会える それが嬉しい

残暑の8月下旬、コスモス班では恒例のスイカ割りで盛り上がっていました。今年の主役は何と言ってもBさん。その理由は”長い入院生活を乗り越えてデイセンターに戻ってきてくれた”からです。

大好きなスイカを穏やかに味わうBさんの姿…感無量です。みんな心からの「お帰りなさい」を伝えました。当たり前に過ぎていく毎日こそ本当はかけがえがないものなのです。

”ご自宅で安心して日常生活を送ってもらいたい”

この思いを医療機関、相談支援センター、デイセンター等の事業所職員で共有し新しい医療サービス利用に繋げていきました。医療を身近な存在にしていくことで地域生活を支えていきます。（コスモス・平）

45号で紹介したメロンのころたん。
無事収穫して味わえました。

広報誌の封入作業は　デイセンターさくら草・アトムが担当しています

２０１８年１０月２３日発行　毎月12回（1と3と5と7のつく日）　通巻７２８７号　第４５号
ＳＳＴＫ　１９８３年7月１９日第三種郵便物承認(2)

～夏祭り～

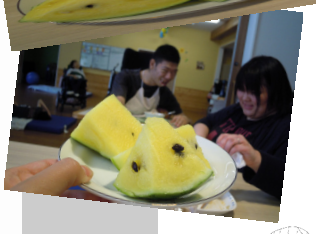
8月下旬、昨年に引き続きの夏のお楽しみイベント“いぶき夏祭り”を行いました。スタートはスイカ割り！回って回って回って・・あれどちらへ？？スイカ割りの楽しいところです。そんな中、チドリ足の職員を優しくスイカの元へ誘導してくれたＫさん・・なのに空振りの様子に大爆笑のＫさん。笑いが広がり、楽しいひと時となりました。最後は職員の一撃でパカーン！
昼食はお祭り定番メニュー。流しそうめん、お好み焼き、焼きそば、フランク、かき氷等々..そうめん流しの竹や本格的なかき氷器にウキウキわくわく。暑～い夏に涼を感じながら・・帰り前は割ったスイカで水分補給を。心ゆくまで夏を味わったイベントとなりました。

夏のおもひで・・　黄色いスイカ

○彡×彡(・ω・)

いぶきで育てたスイカ。実の小さい(とゞ)割れスイカ。
"あれ..失敗かな.."と ダメ元で カットしてみた。
なんと予想もしなかった黄色のスイカ！味は
『甘へい♡』黄色のスイカもちゃんと甘いんだね！
4玉の収穫。初めての経験をした、
いぶきでの夏のおもひで…

★他にも立派な野菜たちが採れました。



(鈴木)

デイセンターいぶき

<さくら草・アトム・いぶき活動報告>　（２０１８年8月１日～２０１８年１０月31日）

8/4、18、25 喀痰吸引等研修 (北嶋)	8/30 安全運転講習
8/6 人形劇団「あんもち」公演	9/3 サービス管理責任者研修Ⅰ(福岡)
8/6、13 埼玉県強度行動障害支援者養成研修(近藤)	10/17　さくら草おまつり
8/6、24、9/26、10/31 障がい福祉人材の確保に向けたPRイベントTHE SHOGAI FUKUSHI in SAITAMA CITY実行委員会　(近藤・春田・野島)	10/27　善前公民館文化祭オープニングセレモニーさくら草バンド登場
8/7 川口市内障害者運営団体連絡会(市川)	

健康診断：年２回／通院介助、静的弛緩誘導法訓練会参加、陶芸、せっけん教室：適宜　誕生会：各誕生月／理容カット、体重測定、各班避難訓練、各班イベント、音楽療法、アロマセラピー、給食会議、家族会：月１回／美容カット、安全委員会：隔月／各会議：月１回～

２０１８年１０月２３日発行　毎月12回（1と3と5と7のつく日）　通巻７２８７号　第４５号
ＳＳＴＫ　１９８３年7月１９日第三種郵便物承認(3)

アシストさくら草

皆さんこんにちは★
今回は、先日9/12にヘルパー会議を行ないましたのでその様子をお伝えします♪

「自閉症の特性と支援」という内容で、デイセンターの近藤施設長が講義をして下さいました。自閉症はどこからどこまでという明確なものはありませんが、その中での自閉症やアスペルガーの診断基準、特性などのお話がありました。
1人1人違い、ケースバイケースなので難しい問題が多々あると思います。
今回のヘルパー会議もとても勉強になる会議となりました。

このようにヘルパー会議は定期的に行なっていく予定となります。

キッズさくら草

今年度のキッズさくら草はこんな活動しています。

カラオケ大会

母の日、父の日制作

水遊び、プール

この他にも
七夕や
ハロウィーン等の
季節の制作

夏休みには
流しそうめんや
水鉄砲大会など

様々な活動を
通して
子どもたちの
成長を
見守っています。

２０１８年１０月２３日発行　毎月12回（１と３と５と７のつく日）　通巻７２８７号　第４５号
ＳＳＴＫ　１９８３年7月１９日第三種郵便物承認(４)

新グループホーム “クローバーハウス”開所

今年の４月から内谷に４名の女性が暮らすグループホームが開所しました。　開所式には、クローバーハウスに暮らす利用者さん、ご家族や親戚、近所の方々にもたくさん来て頂きました。デイの職員にも手伝ってもらい、厳かな中にも温かな開所式となりました。ご参列いただきました皆様に感謝を申し上げます。　（田邉）

開所式の様子

9月5日
内谷五丁目自治会集会場にて

どんなに重い障がいがあっても自分らしい地域生活を送れるように支援をする。それを実現するのがグループホームです。さくら草の当初からの考えです。私達は、それを理解し、実現し自らの使命とし、日々挑戦を続けたいと思います。（一之瀬管理者）

てんハウスぐりん
～職員紹介～
４名の職員さんが来てくれました(^^)

←伊東　敏江　さん
利用者様が、快適に生活をして頂けるように頑張りたいです。

不慣れではございますが、宜しくお願い申し上げます。
↓佐倉　聡　さん

↑大谷　栄子　さん
８月から勤めさせて頂いています。利用者さんに寄り添い頑張ります。

↑山口　美紀　さん
８月からお世話になっています看護師です。まだ慣れていないので、宜しくお願いします。

２つのグループホームが出来ました。てんハウスぐりんとクローバーハウスが一つの事業所になりました。今年の４月よりさくら草グループホームとして活動しています。これからはさくら草グループホームとして今後とも宜しくお願いします。（田邉）

事業所名 さくら草グループホーム

２０１８年１０月２３日発行　毎月12回（1と3と5と7のつく日）　通巻７２８７号　第４５号
ＳＳＴＫ　１９８３年7月１９日第三種郵便物承認(５)

～継続はちからなり～

富田さん熱弁中

浅見さん説明中

先日、ゆずにてヘルパー会議を行いました。今回のテーマは「障害福祉サービス」についてです。その種類や内容について、もう一度再確認をしました。

私たちのように、多種のサービスを複合的に活用して利用者様にかかわっている事業所ではそれぞれの、制度をよく知っておく事も大切。

制度に合わせて支援を組み立てることはもちろんです。
そしてもうひとつ大事なことは、ご家族からのご依頼・ご相談を受け、協力して、地域での生活を支援し続ける事も必要と考えています。

～今月のテーマは健康管理 私達の体のメンテナンス でいい支援を続けよう～

皆、熱心に聞き入っています。

～ゆずに仲間が増えました～

ピンクがお似合いの青木さん

青木昌徳さん

年齢　働き盛り

趣味　お馬さんを見にゆくこと

好きな食べ物　ラーメン

10月からゆずの仲間になりました。
青木昌徳です。
一生懸命がんばりたいと思っています。
いろいろと教えて下さい。
よろしくおねがいします。

サポート　ゆず

２０１８年１０月２３日発行　毎月12回（1と3と5と7のつく日）　通巻７２８７号　第４５号
ＳＳＴＫ　１９８３年7月１９日第三種郵便物承認(6)

✥　あるがままの生活

最近、通所施設に入職した経験豊かな職員と面談した。

「改善点は？」の問いかけから始めたが、利用者と職員のかかわりのあり様、利用者が主体性を発揮し生活している様子に話が及んだ。

ある職員の声かけがいい。全体には皆に届く大きな声で。個人には一人ひとりにあった声掛けをしている。一人ひとりを尊重している声掛けに、他の職員も倣っている。
その雰囲気のなかで利用者は、のびのびと自分を出し過ごしている。強制しない指示的環境ではないので、利用者個々のその人らしさが表出されている。
ある利用者は、食事の時に白板に貼ってある席札を自分の好きなテーブルに動かしている。支援体制が大丈夫なら希望に沿うし、難しいようであれば説得して譲ってもらう。
気がのらない時もある。時には甘えもわがままもある。それを受けとめたり、もうひと頑張りしようと励ましたり、職員も十人十色、その時々の職員の声かけも状況に応じて様々である。
このときのやり取り、押し引きが大切なかかわり場面であり楽しい。

別の利用者は、ドアが開いていると職員に閉めてと言葉の代わりに仕草で教えてくれる。仲間の歯磨きが終ったから仕上げに行ってと教えてくれる。その人が車両の運行表をこっそり自分の鞄に入れるいたずらもする。見ていた仲間に言われて鞄からそろりと取り出していた。頑固なところがあるが、仲間思い。よく周りを見ていて生活リズムも分かり成長している。

多様な利用者、多様な職員が構成している社会がそこにあり、一人ひとりがあるがままに受け容れられているのがいい。
利用者に一斉に課題を与えない環境が自然体で自分らしい生活を引き出している。

多様性を受け容れ、そのかかわりを楽しむことの価値をその職員に教えられた。声にならない彼らの意思を育て引き出している意義をもっと職員間で共有する必要があると感じた。

✥　組織的な運営に本格始動

認可施設となって12年目、点在する事業所で、多くの職員が支援に携わるようになってきた。どうしても創設理念にかける思いは薄くなり、支援にもばらつきが生まれてきたことは否めない。
数年前から年数回各事業所から幹部職員が集まる会議で、課題の共有や法人を担う意識の喚起を行なってきた。
新たに施設長となり責任を持ち事業所運営に携わり、また同業者連絡会に参加することが増えてきた職員から法人内で統一した方針を整えていく必要性があると声が上がってきた。
9月の幹部職員会議で、「経営会議」として毎月会議を持つことが決まった。
今後、人材育成・定着、防災並びに事業継続、事業の見直しや新規事業について法人が一つになり、組織的な運営に向けて本格的に動き出すことになった。
さらに利用者主体、地域生活を、法人が一丸となって支えていく体制を盤石にしていきたい。　(山本)

編集後記

通勤途中の道路脇に植えてある植物。春はチューリップ、夏は向日葵、秋はコスモス。移りゆく季節を感じながら毎日歩いて通勤しています。(S)

✽さくら草だよりは晃新印刷さまのご厚意を頂き印刷しております✽